



2023年3月25日・中京 初勝利のウィナーズサークル

小島友実の あの馬の STORY



ベフアーナ

今回の主役は松下武士厩舎に所属するベフアーナ。デビュー戦目となった中京タート1800mで初勝利をマーク。松下調教師がグリーンファームの馬を管理するのはベフアーナが初めてで、「元々、高い素質があると感じている馬です。最初に預からせて頂いた馬で、まずは一つ結果を出せて本当に良かったです」と話します。

ベフアーナがデビューしたのは昨年の11月27日。阪神の芝2000m戦でした。「エヒラアネイア産駒で、母系の血統もしっかりしていますし、やはり最初は芝でデビューしました。結果は着てはいたが、直線で前が開かないところもありましたからね。初戦の内容を見て、まず未勝利戦は勝ち上がりを感じました」

2戦目は12月18日の中京芝2000m戦。「外々を回されたのが痛かったですね」と松下調教師が振り返るように、大外枠の18番ゲートが影響しました。

そして3戦目からはタート戦に転向。そこには師のこんな狙いがありました。「馬力があるからタートもこなせると感じていました。それにタートの方がメンバ的に戦いやすくなり、勝ち上がりやすくなじまかな」

そのタートでの初戦となった1月8日の中京タート1800m戦は4着でした。「コーナーあたりから行きたがって、ちくばな競馬になったものの、後半は良い脚を使い、見どころのあるレースでした。やはり、タートは合つたなと思いましたね。次につながる内容でした」

状態に問題がなかったことから、中2週で1月28日の中京タート1800m戦に向かいました。

「道中は後方からの追走。直線は内から伸びて3着。タートにも慣れてきた印象でした。ただ、ここまで4戦続けて走ってきたので、リフレッシュさせる意味もあり、放牧に出しました」

休養を挟み、3月25日の中京タート1800m戦に出走。前述の通り、この5戦目で嬉しい初勝利を手にしました。

「最内枠だったのが心配しましたが、連続騎乗だった鞍馬克駿騎手が、気難しさのあるこの馬を上手くなだめてくれました。完璧なレースでしたね。普通ならば前が残る展開。それを捉えたのですから、やはり能力があると感じました」

この初勝利の時は不良馬場。見えないダメージがあるかもしれないことを考慮し短期放牧に出て、5月11日に帰厩。昇級戦となる5月28日の京都タート1800m戦に出走し、11着でした。

「昇級初戦といつて、ペースの違いに戸惑ったというのもあったと思います。前半は頭をふらつて行きたがる面を見せましたが、ペースが流れたところはリズムよく走っていました」

松下調教師に改めて、6戦目までのベフアーナの印象を聞いてみました。

「真面目に一生懸命走る馬です。馬格もあって、飼ひ葉食いも良く、普段は本当に手がかりません。ただレースへ行くと前半でペースが緩んだところで、少して行きたがる面を見せますね。こうなると

詰まっちゃったり、自分のリズムで走れなくなっちゃいます。調教でも行きたがる仕草を出す面があるので、これを軽減させるのが課題です」

「こういうような対策を取り入れていきます」

「初勝利をマークした5戦目の前の調教時から、口を鼻革を着けています。これにより口が開かなくなるので、ハミの位置が安定。結果としてかかることを軽減させる効果があります。ベフアーナの場合、少しずつ効いてきていると思います。今後、馬体も成長していくでしょうし、さらに活躍できるポテンシャルを持っています。現段階でも勝つ力は勝てる力がありますから、まずは勝目を目指したいですね。もっと走らせてあげられるように頑張ります」

この電話取材の後、6月10日には阪神タート1800m戦に出走。結果は6着でした。松下調教師に再度、連絡を取って、「今回は勝ち時計が、勝つペースよりも速く、相手が悪かったです。それでも道中、しっかり折り合えていましたし、良いレースができたと思います。今回の内容からしても、やはりタート1800m戦で行こうと考えています」と話していました。騎乗した西村淳也騎手も「コーナーで上がって行く脚も良かったので、メンバー次第でチャンスがあると思います」とコメントしていましたから、楽しみです。一戦ごとに力をつけている印象のベフアーナ。今後、期待しましょう。

(電話取材：6月8日&10日)

profile

競馬キャスター&ライター。現在、ラジオNIKKEI「中央競馬実況中継」に出演中。「週刊競馬ブック」や「JRA-VANスマホアプリ」にて連載を持つ。ライフワークは馬場取材で、2015年「馬場のすべて教えます(主婦の友社刊)」を出版。JRAの競馬場の他、最近は地方競馬場の馬場取材も行っている。